

を任された谷教授や教室員と地元住民とが一体になった、まさにワンランク上のチーム医療を見せていただき、出席者一同たいへん参考になりました。

最後に、今回の学術集会の準備・運営にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

第18回熊本県支部学術集会

学術集会会長：玉名地域保健医療センター院長 赤木純児



会場風景

2016年3月5日(土)、九州看護福祉大学会議室において、第18回熊本支部学術集会を開催いたしました。『現代型のコミュニティとし

ての地域包括ケアシステムがめざすもの』をメインテーマに416名のご参加をいただきました。現在の日本では人と人を密接につなげる機能を持っていた日本独自のコミュニティが消失し始めており、その結果、核家族化、高齢者の独居、老々介護などの多くの社会問題が噴出しています。今提唱されている地域包括ケアシステムは、医療・介護・福祉に関わる多職種の人たちが支える、新しい形のコミュニティになる可能性を秘めていると考えています。シンポジウムでは、地域包括ケアシステムで重要な要素となる、在宅医療(シンポジウム1「在宅医療を通じた地域づくり」と食支援(シンポジウム2「食支援とリスクマネジメント」)を取り上げて、活発な意見交換をして頂きました。その他、一般演題71題、ポスター30題、クリティカルパス12題、計113題でした。

また、特別講演として、日本医師会常任理事の笠井先生に、「日本医師会の医療政策」というテーマでご講演頂きました。

最後に、本学術集会開催にあたり準備と運営にご支援とご尽力を頂きました全ての皆様に篤く御礼申し上げます。

第16回東京支部学術集会

学術集会会長：公立昭和病院院長 上西紀夫

第16回東京支部学術集会を2016年3月12日(土)、小金井宮地楽器ホール(小金井市民交流センター)にて開催し、招待者、関係者を含め418名の参加がありました。

今回は「地域包括ケア～多職種の連携を問う～」のテーマの下に、国際医療福祉大学大学院の武藤正樹教授による基調講演「2025年のカウントダウン～地域医療構想と



会場風景

地域包括ケア」、康応大学医学部医療政策・管理学の宮田裕章教授による教育講演「地域包括ケアにおける保健医療の質の向上

の課題と展望・ビッグデータ時代におけるICT活用」、立川在宅ケアクリニックの井尾和雄院長による特別講演「都会における地域包括ケアシステムと在宅緩和ケア」が行われ、それぞれの立場から現状の問題点と今後の課題について示唆に溢れる講演がなされました。また、シンポジウム「看護師による特定行為の意義と今後の展望」、パネルディスカッション「地域包括ケア時代に向けて～地域で取り組む感染対策について考える～」が行われ活発な討論がなされました。一般演題は54題(口演32題、ポスター22題)の発表があり、それぞれのセッションから優秀演題1題、合計10題が選ばれ、昼の総会後に表彰式が行われました。なお、一般口演ではより討論を深めるべく司会の他にコメンテータにもご参加いただき、会を盛り上げていただきました。

最後に、本学術集会開催に当たりご支援、ご協力いただいた全ての皆様に深謝申し上げます。

第5回埼玉支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構西埼玉中央病院
院長 成宮学

2016年3月20日(日)、埼玉県県民健康センターにおいて第5回埼玉支部学術集会を開催し、133名のご参加をいただきました。テーマを「地域における感染対策の変革」とし、基調講演、教育講演、特別講演、ランチョンセミナー、一般演題、シンポジウムの発表が行われました。

東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学分野教授の賀来満夫先生には特別講演で、自治医科大学附属病院感染制御部部長の森澤雄司先生にはランチョンセミナーでのご講演をお願いし、貴重な情報を得ることができました。

一般演題では6人の演題発表があり、シンポジウムは「感染症クライシスに備える」と題し、3人の先生方に「行政の立場から」「大規模病院の立場から」「感染管理担当者の立場から」それぞれ発表をいただき活発な討論を行うことができました。

最後に、本学術集会の開催に当たりご協力をいただきました関係各位、ご参加いただきました皆様に深く感謝申し上げます。